

JELFA 会員の皆様へ毎月お届けする最新ニュースです。

## Topics

- ・ 総会報告 ...2P,3P
- ・ JELFA フォーラム 2011...4P,5P
- ・ 「CS プログラム進捗状況」「エコプロダクツ 2011 出展」のお知らせ ...4P



## ジェルファ コラム column

### “花想”を通じた鮮度保持提案

国際紙パルプ商事株式会社  
専務取締役 田辺 円

当社が「花想」を商品化したのは1994年ですが、当時の日本経済はバブルが崩壊したものの97～98年の金融危機が発生するまでの間は依然高度経済成長期にありました。私の記憶では異業種企業が挙ってフラワービジネスに参入し、テレビでも企業のサイドビジネス（花卉事業）を題材にしたドラマが放送されたり、政府も減反政策の一環として休耕田での花卉栽培を後押ししていたのもこの時期です。また、1990年代の初め頃には「カジュアルフラワー普及委員会」のような組織が農林省の傘下にあり、同委員会には生産者だ

けではなく、販売の担い手として大手量販店がメンバーに名を連ねるなど、スーパー業界が切花販売に参入した時期でもあったと思います。

当時の日本における切花市場はギフトや仏花中心であったのに対して、欧米ではご承知の通り生活様式の中にお花を楽しむ文化が定着しており、販売チャンネルも専門店も勿論、ホームセンター、食品スーパー、大学生協に至るまで行き届いておりました。また、花束にはフラワーフードとして切花延命剤（小袋）がサービス品として付いており、家庭での花管理を延命剤でフォローする仕組みが徹底されていました。

当社がフラワーラップにシールタイプの切花延命剤「花想」を貼った包装資材を提案したのもこの欧州のスーパーで見た販

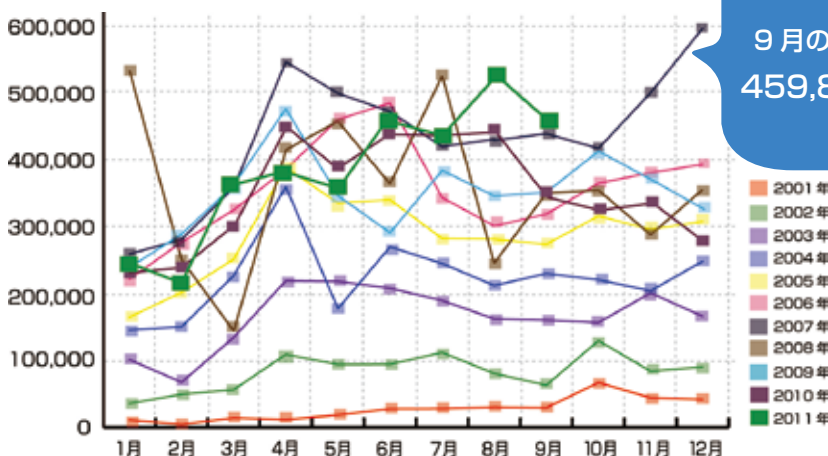
売方法がヒントになっており、日本においてもこの方法が更に普及していくものと期待しております。

「花想」の開発ですが、シールに塗布する薬品を選定するのに延命効果テストを含め1年近くを要しましたが、安心・安全を担保した環境・人体に負荷のない商品を開発出来たと満足しております。

お陰様で現在では大手量販店のダイエー様、ホームセンター大手のコメリ様、全国でフラワーショップを展開している日比谷花壇様を始め、多くの店舗でご採用戴っており、これからも切花市場の普及・拡大に少しでもお役にたちたいと思っております。また、“鮮度保持”をテーマとした包装資材などの開発により、今後も花卉業界に新たな風を吹き込めるよう、弊社一同精進して参ります。

## ELF バケット流通量のご報告 2011年9月末現在

### ★月間流通量



総計流通量 35,018,655 (2001年から2011年9月末まで)



8月の月間流通数量が  
2008年7月以来50万バ  
ケットを超えました！

8月の流通量  
534,740 個

# JELFA 総会報告

2011年8月18日、特定非営利活動法人日本ELFシステム協会の第2回通常総会が行われました。正会員112名中63名（内、書面表決者数40名）によって、定款に定める定足数1/2を超え、総会が開会。会長の谷口を議長に全議案が承認されました。

## ◆ 2011年度事業について

今年度は、ELFバケットシステムをより明瞭で使いやすいシステムにする活動を進めるとともに、JELFAの掲げる「流通品質の追求」をより現実にするべく、新システム（CSプロジェクト）の開発にも取り組んでいきたいと考えております。また、展示会への参加を増やし、一般消費者向けのPR活動にも取り組んで参ります。そして、セミナー開催や研修ツアー開催など、花き業界の活性化、消費拡大となるような活動にも取り組み、より実践的で公共的な組織として、役割を果たしていきたいと考えております。

### (1) ELFバケットシステムの普及・啓発に関する事業

#### ・展示会参加など

- 参加予定：2011年10月、フラワーフェスティバル in 近畿
- 2011年12月、エコプロダクツ2011
- 2012年2月、スーパーマーケットトレードショー2012
- 2012年3月、2012日本フラワー＆ガーデンショー
- 2012年7月、フラワードリーム2012



#### ・会報誌による情報の提供 月1回もしくは2カ月に1回の発行

#### ・ホームページによる情報の提供 月々情報を更新

#### ・ELFバケット普及推進会議の開催（新規産地・市場獲得活動） 随時



### (2) 花き業界についての調査・研究及びその公表に関する事業

- ・カナダ花き流通調査とその調査発表を予定（2012年5月）

### (3) 花き業界の活性化を目的とした研修会・セミナー等の企画・開催に関する事業

- ・オランダと日持ち保証発祥の地イギリスを視察予定（2011年11月）

### (4) 花き業界に関連する個人・団体への協力・支援に関する事業

- ・ブーケメーカー・販売店舗向け認証開発事業、「JELFA CSプログラム」の発足

### 〈事務局体制について〉

これまで事務局は4名体制で行っており、事務局長は常務理事の佐無田が兼任しておりました。今年度より、事務局を5名体制に変更し、事務局長を佐無田常務理事の兼任から、青山兼人事務局長の専任に致しました。また、新たに田中事務局を増員しております。

事務局の実務運営を大阪の田中事務局の元に置き、より良い事務局運営を行って参ります。

よろしくお願い致します。

注) 事務局の連絡先は、これまでと変更ございません。

新事務局長  
青山兼人からの  
ご挨拶



今期より JELFA 事務局長に就任いたしました、青山兼人と申します。2000年から ELF システムの活動が始まり、その普及の中 2002年に日本 ELF システム協会が設立され、2009年に NPO 法人日本 ELF システム協会へと発展。2000年から10年、花き産業のマーケットは縮小化の一途をたどっておりますが、そんな中、ELF バケットシステムの基本理念「鮮度保持」「環境保全」「コスト削減」「インスペクト」の4原則を重視。JELFAの活動テーマを「流通品質の追求」として活動を続けています。これからの10年、マーケットの縮小から拡大へとシフトしていくためには、「流通品質」は当たり前で、それ以上のテーマが要求されていると感じます。JELFAとしては、近年スタートしたプロジェクト「CSプログラム」もその一環です。産地・流通・消費でそれぞれ課題はあると思いますが、花き産業活性化に向け、JELFAとして取り組んでいく所存です。年2回開催するセミナー、フォーラムや会報誌の発行は継続し、展示会への出展やイベントなどへの参加活動を増やし、花き産業マーケットが拡大の方向へ進むよう取り組んで参ります。

〈北海道・東北〉	
1	札幌花き園芸株式会社
2	株式会社青森花卉
3	株式会社仙花
4	仙台生花株式会社
5	株式会社石巻花卉園芸
6	秋田生花株式会社
7	株式会社福島花き
8	株式会社いわき中央生花
9	郡山花き株式会社
〈関東・甲信越〉	
10	株式会社茨城県水戸中央花き市場
11	北関東花き株式会社
12	常磐園芸生花地方卸売市場
13	フロリード株式会社（とちぎフラワータウン）
14	株式会社宇都宮花き
15	群馬県中央園芸株式会社（高崎市総合地方卸売市場）
16	群馬県中央園芸株式会社（熊谷花市場）
17	株式会社埼玉園芸市場
18	鴻巣花き株式会社
19	株式会社フラワーオークションジャパン
20	株式会社東日本板橋花き
21	株式会社第一花き
22	東京フラワーポート株式会社
23	株式会社世田谷花き
24	川崎花卉園芸株式会社（北部）
25	株式会社南関東花き園芸卸売市場
26	群馬県中央園芸株式会社（長岡園芸卸売市場）
27	株式会社新花
〈近畿・東海・中国〉	
28	株式会社富山中央花き園芸
29	株式会社金沢花市場地方卸売市場
30	株式会社長野中央園芸市場
31	株式会社浜松生花地方卸売市場
32	株式会社するが花き卸売市場
33	株式会社静岡県花き園芸卸売市場
34	株式会社名港フラワーブリッジ
35	株式会社 J F P
36	株式会社名古屋花き卸売市場
37	株式会社伊勢生花地方卸売市場
38	京都生花株式会社
39	兵庫県生花株式会社 梅田生花市場
40	西日本花き株式会社
41	株式会社泉州花卉総合卸売市場
42	株式会社鶴見花き
43	株式会社姫路生花卸売市場
44	兵庫県生花株式会社 神戸花き
45	岡山総合花き株式会社
46	株式会社花満
〈九州・沖縄〉	
47	福岡県花卉農業協同組合
48	久留米花卉園芸農業協同組合
49	長崎花き園芸農業協同組合
50	熊本県花き園芸農業協同組合
51	沖縄県くみあい生花株式会社
52	株式会社沖縄県花卉卸売市場

2011年9月28日、JELFAフォーラム2011を開催いたしました。お忙しい中多くの方に出席して頂き、大盛況で終わることができましたことを、心よりお礼を申し上げます。また来年もこのような形で勉強会を開催する予定ですので、ご参加の程、よろしくお願いたします。

**テーマ** 世界の花き業界の今！

## オランダフローラ ホーランドから見た発展

講演者：ピーター・ボウマ氏

オランダ唯一の生花市場「フローラホーランド花市場」のアフリカ・エリアマネージャー。

フローラホーランド花市場とは、2008年にアールスメア生花市場と合併したオランダ最大の生花市場です。オランダ国内のみならず、世界中から花が集められ、世界中に輸出されています。



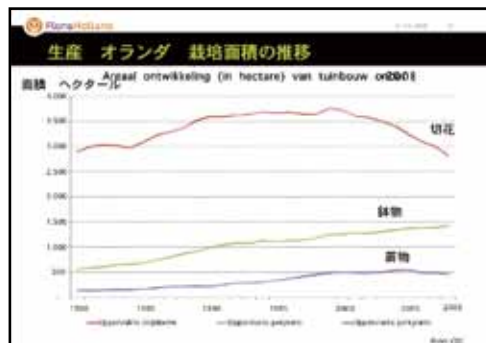
### 1. オランダ（フローラホーランド）を中心とした花の流れ



ロシアを主とした東欧諸国の経済成長をひとつの要因に、ヨーロッパの切り花マーケットが年々拡大を続けています。（オランダからロシアに対する輸出量成長率は、2010年対2011年対比で34.3%の予想）輸送形態も見直しが行われており、飛行機だけでなくコストのかからない長距離輸送（鉄道、車、船等）に拡大される予定です。



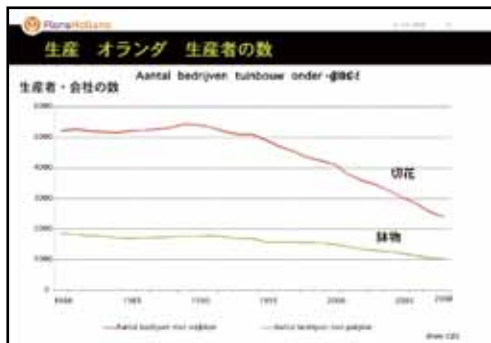
2009年対2010年のヨーロッパでの切り花・鉢物の消費額も増えており、マーケットの拡大を裏付けています。特に鉢物の成長率が大きく、これからも鉢物の成長率が上がっていくとの予想されています。



赤道付近地域への切り花生産地は以前から重要視され増えてきました。しかし、鉢物の生産地移行は行われておらず、オランダ国内での生産は増加傾向にあります。



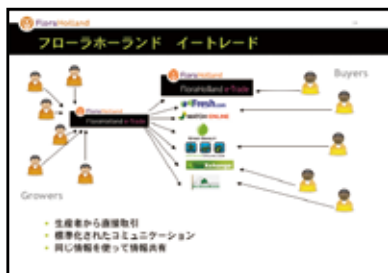
理由としては、鉢物は1つ当たりの重量が重く輸送コストが高いため消費地の近くで生産されるためです。



フォーラムの様子

生産者数は減少していますが、生産者当たりの栽培面積が増えており、取扱高も増加しています。

## 2. オランダ国内唯一の花市場フローラホーランドの現在の相対取引システム紹介



インターネットを使用した販売形態（コネクトとイートレード）が主流になってきています。生産者が直接フローラホーランドのイートレードに入力を行い（写真付き）、購入者はその情報を基にして相対取引購入をします。このシステムを発展させていくためには、各生産者から出荷される全ての花に対して、完璧な流通システムの確立が必要とされています。



フローラホーランドでは、生産者が農場で出荷情報を入力し、ラベル印刷、スキャンを行います。その出荷情報はインターネットを通じて共有されており、空港や市場に到着した際にラベルをスキャンすれば、生産者が入力した出荷情報は更新されていきます。イーシステムでは、出荷した荷物の状況と履歴を細かく確認することができるため、業務効率を高めることができます。また、国際的なビジネスとしても発展することができます。

### <まとめ>

1. ヨーロッパでの切り花・鉢物のマーケットは拡大している。
2. 拡大は東欧とロシアが牽引している。
3. オランダでの切り花生産は減少し、鉢物生産は増加している。
4. 鉢物生産は輸送費の関係からオランダで増加し、規模も拡大傾向である。
5. 切り花生産は、赤道地域にシフトしている。
6. 生産地から消費地までのサプライチェーンの品質鮮度管理がますます重要になってきている。
7. なかでも船輸送への関心が高く、船輸送での品質管理システムの確立に関心が高い。
8. フローラホーランド市場では、相対取引システムの確立が必要とされ、生産から各流通での出荷情報がインターネットを経由して誰でもどこでも確認できるようになっている。

## JELFA 調査 2010 ロシア花き流通調査報告 (2011年6月5日～12日) 報告者：JELFA 常務理事 米田 裕史

調査結果からロシアの花弁業界の現状は、国内切り花産地は皆無に等しく、現在流通している切り花の90～95%はオランダ経由の輸入品です。その少ない国内生産拠点も、消費が多いモスクワ・サンクトペテルブルグ近郊にあります。花だけではなく、生産からインフラまでオランダから輸入したことにより、徹底したコールドチェーンが行われています。

現在はギフトが中心の消費で、男性・女性両方が考える欲しいプレゼントとして、花が40%以上という比率になっています。今後の課題はギフト以外の分野開拓が必要とされています。これからの花店と量販店で花を販売する際の役割分担もどのようになるのが興味深い状況です。これからのロシアは花き業界も早いスピードで発展していきそうで、これからどのように変化するのが楽しみな国のひとつです。